

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	<b>13</b>
合計	<b>100</b>

## 記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	柏崎市認知症老人グループホームかたくりの里
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	新潟県柏崎市西山町別山1589-1
記入者名 (管理者)	小玉 真寿美
記入日	平成 21 年 7 月 13 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所時より、「穏やかで安らぎのある生活、自分でやれる喜びと達成感のある生活、自分らしさや誇りをもった生活」をモットーとしている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関・食堂等目につくところに掲示し、職員も理解しているが、それを日々の生活に反映させるまでには至っていない		全職員で話し合う機会を設け、共有して実践できるよう努めたい
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	事業所内に掲示したり、パンフレットには掲載しているが、積極的に理解してもらえよう取り組みは行っていない		家族懇談会を開催したり、地域住民の集会等に参加するなどして、ホームの理念や役割について説明する機会を設けたい
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえよう日常的なつきあいができるように努めている	散歩の時に、近隣住民と話をしたり、コミュニティーセンターの職員に「かたくり便り」を読んでもらうなどして、気軽に声をかけ合う関係作りに努めている		気軽に立ち寄ってもらえよう雰囲気作りに、もっと力を入れたい
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のボランティアに来てもらったりはしているが、積極的な地域活動への参加はあまりしていない		コミュニティーセンターと連携を図りながら、積極的に地元の人々と交流する機会を設けたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	取り組んでいない		今後、職員で話し合い、何ができるか考えていきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	より良いホームとなるための気付きの機会として捉え、理解している		改善すべき点を明確にし、職員間で周知する必要がある
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を実施して、利用者の様子や今後の取り組み等について報告した 現在抱えている問題や課題について話し合い、貴重な提案をもらっている ボランティアの斡旋等、具体的な協力も得ている		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	高齢福祉課の職員と情報交換を行ったり、柏崎刈羽ケア研究会が開催する研修会に参加したりして、サービスの質の向上に取り組んでいる		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修に参加して学んでいる。該当する利用者がいないため、活用の支援はしていない		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修に参加し学んでいる。また、職員間で話し合い、防止に努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約・解約をする際は、利用者や家族の話を傾聴し、丁寧に説明することを心がけている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議に、利用者の代表にも出席してもらい、意見を述べる機会を設けている</p> <p>日々の利用者との会話の中で、意見や不満・苦情と判断される内容については随時話し合い、運営に反映するよう努めている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月の金銭報告や便りの発送を定期的に行っている。また、変化があれば随時連絡をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置、重要事項説明書の中で受付窓口について明記し、外部へも表せるようにしている。他にも、面会時に意見や苦情を受けけるようにしている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>			<p>全員参加で話し合う機会を設ける</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況や要望に対応できるよう、勤務調整を行っている</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>配慮している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に参加している 研修案内を紹介し、参加を勧めている		外部研修に多く参加できるようにしたい
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市で行われる連絡会議に参加し、情報交換を行っている 近隣のグループホームとの交流も行っている		他のグループホームとの交流の機会を増やし、サービスに反映させたい
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	直接職員と話し合う場を設けたり、相談に応じる体制はできている		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	努めている		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	困っていることをよく聞くようにした		事前面接を行い、本人の現状や不安、要望等を受け止める努力をしたい
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の意向を聞き、サービスに反映できるよう努力した		事前面接を行い、家族の現状を理解し、家族の思いを受け止める努力をしたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は、状況についてよく話を聞くよう心がけ、参考となることがあれば提案するようにしている		相談受付時の記録を執るよう心がけたい
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族の意向を聞き、馴染みやすい雰囲気作りをしながら、その方に合ったサービスを工夫している		本人が安心して生活できる場所とはどういうものなのかを考え、試行錯誤することが必要である
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々、少しずつでも出来ることを見出し、出来た時の喜びや頑張れたことを大いに評価し、生活の張り合いになるようにしている		本人から学ぶ気持ちを忘れない
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	外出・外泊・面会・受診など、家族の協力を得ながら本人について話し合い、共に支えられるよう努めている		遠方にいる家族については、便りなどで日々の様子をなるべく詳しく伝え、関係が遠退かないよう努めたい
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族に面会をお願いしたり、電話をかけてもらうなどして、本人が直接家族への思いを伝えられるよう配慮している 本人に代わって伝えたり、家族の思いや現状を本人に伝える役割も果たしている		本人と家族との関係については、十分理解できていない部分もあるので、直接会って話を聞く機会を設けたい
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力は得られているが、十分とは言えない		家族以外の面会者(親戚・友人等)にも協力を呼びかけ、また、本人が行きたいと訴える場所には、なるべく連れていけるよう努力したい
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の大切な記念日である誕生日を、みんなで祝ったり、困っている時は助け合えるよう支援している		利用者同士が協力し合えるような環境作りをしていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要に応じて対応している		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本意の希望に添えるよう努めている		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用に関しては、サービス提供者からの事前情報等で把握している		家族からの聞き取りが不十分であるため、入所時の聞き取りを十分に行う必要がある。今後は、家族や知人等から話を聞く機会を設け、一人ひとりの全体像を把握できるように努めたい
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個別記録に様子がよく分かるよう記録することを心がけ、毎日のカンファレンス等でも話し合い、把握するよう努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、及び担当者を中心とする職員間の話し合いを基に、意見を反映するよう努めている		家族と話し合う機会が少ないため、話し合いの場を設け、家族の意見も尊重したい
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人、及び担当者を中心とする職員間の話し合いを基に見直しを行い、作成している		家族には、面会時や電話等で状況を説明し、相談するようにしているが、今後も協力を得られるようにしていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有に努めているが、実施されているかどうかは把握できていない		計画が実施されたかどうか、記録に残すよう努める
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望があれば対応するよう心がけている 要望がない家族や、状況が見えてこない家族もある		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	協力体制はある		協力体制を強化したい
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入所前または退所前に、他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合っている		今後も、他機関との連携を図っていきたい
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	法人内の居宅支援事業所や、市の福祉課とは連携をとっている。		地域包括支援センターとの連携に努めたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回、主治医の往診があり、必要に応じて受診している 往診がない人については、家族の協力が得られている 本人の状態について、かかりつけ医に適切に情報が伝わっているかどうか、不安に思うこともある		かかりつけ医と直接話をするなど、より正確な情報を提供できるよう心がけたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	家族との連携を図りながら、専門医等への受診支援を行っている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	母体施設・特養の看護職員と相談しながら、健康管理に努めている		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院関係者に直接状況説明をすると共に、日常の様子を伝えることで、本人が安心して過ごせるよう努めている 入院中も病院関係者から情報を得るようにしている		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向はある程度把握しているが、本人やかかりつけ医との話し合いは不十分である		方針を整理し、全員で共有するよう努めたい
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今後の変化に備え、職員間で話し合っているが、どこまでできるかという具体的な結論は出ていない		かかりつけ医を交え、変化に備えての検討を行っていく
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族や関係機関と話し合い、情報提供に努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した言葉かけを心がけているが、徹底されていない 記録等の取り扱いには十分注意している		言葉掛けに注意していきたい
51	<b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思いや希望を尊重しながら、支援するよう努めている		希望の表出が思うようにできない場合や理解力を考慮し、工夫しながら働きかけ、本人の思いを把握できるよう今後も努めていきたい
52	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れは決まっているが、一人ひとりのペースも大切にしながら支援している		一人ひとりのペースを大切にしながらも、メリハリのある生活が送れるように努めたい
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<b>身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みの理容院もあり、職員の働きかけにより、自分の気に入った洋服を買いに行ったりもしている		
54	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	声かけはするが強要せず、なるべく本人が自主的に楽しんでやれるよう配慮している		
55	<b>本人の嗜好の支援</b> 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の体調を見ながら、望む物を楽しめるよう支援している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンの把握に努め、その方に合った支援を行っている		おむつを外せる方がいないか検討していきたい
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応曜日や時間帯は決まっているが、その日の状態や、希望に応じて対応している		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	消灯時間は決めているが、日中の休息時間は特に設けておらず、思い思いに過ごしてもらっている。しかし、食後に午睡をとる人が多い		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できる人には掃除や洗濯、料理などの手伝いをしてもらったり、趣味を活かした活動ができるよう取り組んでいる		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで管理しているが、外出時や希望時など、必要に応じて対応している		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は職員と一緒に散歩したり、食材の買い出しに出かけたりしている		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力のもと、外出・外泊をしている 買い物、ドライブ、外食などを時々行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応している		公衆電話があると良い
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	自由に訪問してもらい、好きな所で会話でき、ゆっくり過ごせるよう配慮している		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行っていない 法人内で行われる研修会にも参加し、身体拘束については理解している		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	見守りに力を入れ、自由に行動できるよう取り組んでいる		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜通して行っている		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の状態に応じて対応している		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	観察をしっかり行い、個々の状態を見ながら危険と思われる場合は、注意を促し対応している 薬は職員が管理し、与薬している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当や急変時の対応マニュアルがあり、年に一度、母体施設で行われる消防職員による講習を受けるようにしている		事業所独自での訓練が必要である
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	水害や地震の経験を活かし、過去においては、地域の協力も得られ、的確に避難することができた 避難訓練は、年2回実施している		地域や母体施設との連携を、さらに強化したい
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	家族には、面会時、日々の様子などからリスク等について話をしてしている 職員間でも話し合い、対策を講じている		一人ひとりの状態を見ながら、変化に応じた対策を検討する
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入浴前のバイタル測定や、様子観察から異変の発見に努めている 必要に応じ、毎日検温を行う場合もある 個別記録や業務日誌にも状態を記録し、カンファレンスで取り上げるなど、情報の共有と観察の強化を行っている		毎日の検温について検討中
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時や追加があった場合は、その都度処方箋を確認し、服薬後の観察も心がけている		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分や運動の必要性を話し合い、排便チェック表を活用して取り組んでいる なるべく薬に頼らず排便できるよう、乳製品で対応したり、繊維質の多い野菜を食事に取り入れるよう工夫している		離床を促し、楽しく体を動かすことを提案していきたい
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨きを、声かけにより行っているが、居室で行うため確認が難しい 確実にできない人については見守りをし、できない部分を支援している 週2回、ポリデントで義歯を消毒している		職員で口腔ケアの研修を行い、理解を深め、毎食後の確認を徹底したい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態や体調に応じ、食事量や形態・水分量等を検討しながら、一人ひとりに合わせて提供している		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルに沿って対応している 手洗いやうがいを励行し、手洗いが不十分な方にはウェットティッシュで拭いてもらうなどしている 法人内で行われる研修会にも参加している		研修会に参加した場合、その都度内容を確認し、職員に周知する必要がある
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所や調理用具については、ハイター消毒を行っている 食品については、担当が必ず賞味期限を確認し、日付などのメモ書きをして、早めに使用するよう心がけている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先の花を手入れしたり、施錠されていた中庭の門を開けて閉鎖感のないよう配慮した 敷地内の草取りも、ボランティアの協力や職員の手により行き届くようになった		東側の広い敷地を活用してコスモス畑にしようと、ボランティアにトラクターで耕作してもらい、種をまいて手入れしている 花を増やして、家族や近隣住民にも楽しんでもらいたい
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルクロスを新しい物に替え、食堂の雰囲気が明るくなるように配慮した 季節の花を飾り、楽しんでもらっている		日当たりの強い居室の窓に、朝顔のグリーンカーテンを作ろうと試みている
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間でテレビを見ながら会話できるようソファを置いている 玄関にもソファを置き、会話したり、中庭を楽しめるようにした		居間の和室スペースを活用したい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や本人が希望する物は、自由に持ってきてもらっている 飾りや花など、好みの物を置くようにしている		居室のスペースが広いので、寂しさを感じさせないような工夫が必要である
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレは常に換気扇を使用し、日中は居室の窓を開け、空気の入換えを行っている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	長い廊下を活用して、歩行訓練などを行っている また、所々に椅子を置き、いつでも休めるよう配慮している トイレや浴室、移動範囲に手摺りがあり、また、必要に応じてベッドサイドに手摺りを置くなどして自立を助けるよう工夫している		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	分かりやすい言葉での説明を心がけている 混乱時は、話を傾聴し、対応している		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物近くの公園を散歩したり、プランター菜園を始め、水くれや手入れをしている		もっと活動できる工夫を取り入れたい

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・残存機能を活かした自立支援を目指している。
- ・月1回くらいの割合で利用者全員と職員で外出し、気分転換を図ると共に、好みの物を自分で選択し食べる機会を設け、楽しみを共有している。
- ・ボランティア任せにせず、率先して草取りをしたり花を植えたりして、地域住民に注目してもらえよう努力している。